

科目区分	副専攻科目						
科目名	現代日本語概論B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代日本語の音声・音韻、語彙、文法のうち、後期のBは主に文法の問題について解説する。文法というと、それだけで苦手意識を持ってしまっている人がいるが、現に日本語を話している以上、われわれは文法を知らないわけではない。無意識に知っていることを意識する方法をもっていないだけである。 概説の時間という限定はあるが、機械的に覚えることは最小限度にして、具体的な文例から法則性を見出すプロセスを共有できるよう努めようと思う。
授業計画 Syllabus	文法 1) 文の種類 2) 節の種類・従属節の従属性 3) 形容詞述語文 4) 動詞述語文・格 5) 復習テスト 動詞述語文・自他 6) 動詞述語文・受動態 7) 動詞述語文・使役態 8) 復習テスト テンス 9) テンス・アスペクト 10) アスペクト 11) アスペクトの決定要因 12) 敬語の種類 13) 敬意表現・ポライトネス 14) 総復習テスト まとめ 15) 解説
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点20% 復習テスト80%
履修上の注意 Requirements and policy	復習テストは3回ほどに分けて行う。前もって予告をするが、進度によって前後することもあるので、欠席した場合のフォローを自らしておくこと。 前期のAを受講していることは必須ではないが、望ましい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法B						
担当教員	河野 美抄子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語を外国語として非日本語母語話者に教えるということはどういうことか。日本語学習者のニーズや背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識を全体的に概観する。最近日本国内では中上級学習者が増加しており、国語教育とは異なる上級者への指導を中心に日本語教育のあり方を考えていく。また、異文化理解、コミュニケーションの問題にも触れる。
授業計画 Syllabus	第1回：日本語学習者について 第2回：コースデザイン1 第3回：コースデザイン2 第4回：中級指導法1 第5回：中級指導法2 第6回：中級指導法3 第7回：上級指導法1 第8回：上級指導法2 第9回：上級指導法3 第10回：異文化理解とは 第11回：コミュニケーション指導 第12回：ボランティア日本語教育について 第13回：評価法1 第14回：評価法2 第15回：後期のまとめ（試験またはレポートの詳細は授業内にて発表）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席（70%以上で評価対象）、課題、試験などの総合評価とする。 出席：30% 提出物：10% 授業参加・積極性：20% 期末試験あるいはレポート：40%
履修上の注意 Requirements and policy	授業中は意見を求めることが多い。積極的な参加が望ましい。
教科書 Textbook(s)	ハンドアウト
参考書 Reference(s)	改定新版 日本語教師養成シリーズ5「日本語教授法」「日本語教育法・実技（実習）」東京法令出版 監修 佐治圭三 真田信治
備考 Remarks	

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法D						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p><授業目的></p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語の文法の仕組みを客観的に考える。 外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。 日本語を教えることはどういうことを学ぶ。 <p>英語など他の言語を学ぶとき、私達は「文法」ということを強く意識します。しかし、私達の母語である日本語の文法について深く考えることはあまりありません。そのため、日本学習者から「眼鏡をかけた人」と「眼鏡をかけている人」は何が違いますかと尋ねられても、すぐに答えることができません。</p> <p>この授業では、普段何気なく使っている私達の母語である「日本語」の文法にどのような規則があり、どのような言語かということについて、客観的に考えます。それとともに日本語を教える時のテクニックについて勉強します。このことが、外国人とコミュニケーションする時のコミュニケーションに役立つだけでなく、自分自身の日本語能力について再発見したり、見直す機会になることを期待します。</p> <p>また、講義形式の授業だけではなく、グループワークも行います。みんなで話し合いながら、日本語の文法について考えてみましょう。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 はじめに・モダリティ</p> <p>第2回 終助詞</p> <p>第3回 副詞</p> <p>第4回 接続詞</p> <p>第5回 待遇表現</p> <p>第6回 敬語</p> <p>第7回 授受表現</p> <p>第8回 あいづち</p> <p>第9回 許可・義務・勧告</p> <p>第10回 命令・依頼・誘い</p> <p>第11回 忠告・感謝</p> <p>第12回 原因・理由・断り・謝罪</p> <p>第13回 意見・ほめ</p> <p>第14回 中級の指導・復習テスト</p> <p>第15回 まとめ・復習テスト講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式（グループワークでの作業もあります）
評価方法 Evaluation	出席＋授業態度＋授業内提出物60% 復習テスト40%
履修上の注意 Requirements and policy	出席するだけでなく、授業中の活動、積極性も評価の対象とします。
教科書 Textbook(s)	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』 山下暁美・沢野美由紀（2008）アルク ISBN978-4-7574-1399-3 C0081 定価1800円
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランスの生活と文化B						
担当教員	野口 一浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	フランスに於ける日常生活や文化を正しく理解し、そこに生きるフランス人の根本的なものの考え方を掘り下げたいと思います。現代の生活から芸術の分野まで多種多様なフランスの面を取り上げます。学生は各自、自分のテーマで研究・発表をしてもらう予定です。						
授業計画 Syllabus	<p>一回 半期の授業内容の紹介及び序論（現代フランスメディアの源流を探る旅）</p> <p>二回 1. 現代仏メディアの現状①（新聞等を分析）</p> <p>三回 1. 現代仏メディアの現状②（新聞・テレビ・雑誌など）</p> <p>四回 1. 現代仏メディアの現状③（フランスサッカー代表チームの軌跡から見るメディア）</p> <p>五回 1. 現代仏メディアの現状の総復習（今のメディアは誰によって支配されている？など）</p> <p>六回 2. 20世紀初頭のメディアの分析①（小説と新聞の関係）</p> <p>七回 2. 20世紀初頭のメディア分析②（小説・新聞・映画の三者の関係）</p> <p>八回 2. 20世紀初頭のメディア分析③（実際、小説や雑誌から生まれた映画を分析）</p> <p>九回 2. 20世紀初頭のメディア分析④（映画『レ・ヴァンピール』を鑑賞する）</p> <p>十回 3. 19世紀メディア分析①（情報の伝達方式）</p> <p>十一回 3. 19世紀メディア分析②（通信社の発展）</p> <p>十二回 3. 19世紀メディア分析③（メディア王・ジラルダンの登場）</p> <p>十三回 3. 19世紀メディア分析④（ジャーナリズムとメディアの奇妙な関係）</p> <p>十四回 4. 総復習（質疑・応答）及び後期試験</p> <p>十五回 4. 総復習（テキストを使用し、重要ポイントをチェックします）</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	筆記試験（60%）平常点（40%）						
履修上の注意 Requirements and policy	欠席5回で試験はうけられません。 毎回辞書を持参してください。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配付します。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks	レポート（及び発表）などが平常点に含まれます。						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習B						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	構文の理解を中心として、いろんなフランス語の文を作る練習をする。 並行して、フランス語の長文の読解の練習もする。
授業計画 Syllabus	第1回：授業のガイダンス 第2回：教科書の第1課の説明と練習 第3回：第1課の復習と第2課の説明と練習 第4回：第2課の復習と第3課の説明と練習 第5回：第3課の復習と第4課の説明と練習 第6回：第4課の復習と第5課の説明と練習 第7回：第5課の復習と第6課の説明と練習 第8回：第6課の復習と「ヴァリエテ・フランセーズ2009」の第11課 第9回：「ヴァリエテ・フランセーズ2009」の第11課の続き 第10回：第7課の説明と練習、および「ヴァリエテ・フランセーズ2009」の第12課 第11回：第7課の復習、および「ヴァリエテ・フランセーズ2009」の第12課の続き 第12回：第8課の説明と練習、および「ヴァリエテ・フランセーズ」の13課 第13回：第8課の復習、および「ヴァリエテ・フランセーズ」の13課の続き 第14回：全般的復習 第15回：試験実施
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	定期試験70%、出席率と毎回の予習の量30%。仏検合格者は5点程度加点する。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回出席カードに予習の量を申告してもらおう。 欠席5回で失格とする。
教科書 Textbook(s)	「フランス語構文練習帳」石野好一著、第三書房
参考書 Reference(s)	「ヴァリエテ・フランセーズ 2009」クリスチャン・ボームルー 著、石野、大久保、山崎編、朝日出版社
備考 Remarks	

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIB						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	語彙力、読解力、聞き取り能力の養成 時事フランス語の教材を使って、語彙力、読解力の向上を目指す。同時に、フランスの社会、経済、政治、文化等の知識を深める。また、聞き取り能力の養成のため、毎回の授業の最後に、ヒアリング教材を用いて聞き取りの練習を行う。さらに、ヒアリングの宿題をも課する。
授業計画 Syllabus	<p>授業計画</p> <p>第1回：前期試験を返し、正答の説明を行なう。授業の進め方、成績のつけ方等を説明したあと、教科書を前期から継続する。</p> <p>第2回：《Le prix Nobel français 2008》の前半を読解する。</p> <p>第3回：《Le prix Nobel français 2008》の後半の読解と、形容詞の最上級、強勢形人称代名詞等の練習問題を解く。</p> <p>第4回：《La pétanque》の前半を読解する。</p> <p>第5回：《La pétanque》の後半の読解と、現在分詞、ジェロンディフ等の練習問題を解く。</p> <p>第6回：《La retraite au soleil》の前半を読解する。</p> <p>第7回：《La retraite au soleil》の後半の読解と、副詞の比較級等の練習問題を解く。</p> <p>第8回：《Champagne !》の前半を読解する。</p> <p>第9回：《Champagne !》の後半の読解と、代名詞on等の練習問題を解く。</p> <p>第10回：《Pèlerinage de Saint-Jacques-de-Compostelle》の前半を読解する。</p> <p>第11回：《Pèlerinage de Saint-Jacques-de-Compostelle》の後半の読解と、直説法複合過去、大過去等の練習問題を解く。</p> <p>第12回：《Le PACS a dix ans》の前半を読解する。</p> <p>第13回：《Le PACS a dix ans》の後半の読解と、条件法等についての練習問題を解く。</p> <p>第14回：総復習問題を解く。</p> <p>第15回：試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	定期試験70%、出席率と毎回の予習30%。それに宿題の成績を加点する。仏検合格者には5点程度加点する。
履修上の注意 Requirements and policy	必ず予習した上で授業にのぞむこと。欠席5回で失格とする。
教科書 Textbook(s)	「時事フランス語 2010年度版」ミシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIIB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	フランス語読解能力の養成（仏検3級レベル） 仏検3級レベルの語彙を用いて書かれたフランス語の文章を読みながら、フランスの政治、フランスの労働問題、フランス人のバカンスの過ごし方、フランスの宗教、フランスにおける男女関係などを学んで行く。						
授業計画 Syllabus	第1回 第6課（1）「フランス人と政治」 第2回 第6課（2）「フランス人と政治」「フランスの左派と右派」 第3回 第6課（3）「フランスの左派と右派」 第4回 第7課（1）「雇用と失業」 第5回 第7課（2）「雇用と失業」「職場の人間関係」 第6回 第7課（3）「職場の人間関係」 第7回 第8課（1）「ヴァカンスの季節」 第8回 第8課（2）「ヴァカンスの季節」「ヴァカンスの過ごし方」 第9回 第8課（3）「ヴァカンスの過ごし方」 第10回 第9課（1）「カトリック教会」 第11回 第9課（2）「カトリック教会」「その他の宗教」 第12回 第9課（3）「その他の宗教」 第13回 第10課（1）「社会における女性と男性」 第14回 第10課（2）「社会における女性と男性」筆記試験 第15回 第10課（3）「家族、カップル、そして子供」						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	平常点（40点）+筆記試験（60点）。なお、点数配分は平均点の数値によって変わることがある。						
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎回辞書を持って来ること。						
教科書 Textbook(s)	Société française、Jean-Luc AZURA他、アルマ出版、ISBN 9 7 8 - 4 - 9 0 4 1 4 7 - 0 0 - 9						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							